

縄南中通信



平成28年 8月29日 発行
2016年度 第5号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校
校長 日比野功

縄手南小中一貫施設分離型義務教育学校（平成31年度開校予定）教育理念

「縄南道」による20才の成人式には

当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成

9月最初の節目を意識せよ！ダッシュで当たり前のレベルを2段階上げよ！

「節目」というのは物事の区切りを示す言葉で、人生においては「人生の流れを変える、もしくは流れの変わる大きな転機」を指す言葉です。学校生活においてはこの「節目」と呼ぶべきタイミングがいくつかあります。夏休み明けのスタートはまさしく1つの「節目」となります。大切なことは、この「節目」を「節目」と意識して自らの行動を進化させることです。「節目」を成長の「節目」とするためには、また進化の「節目」とするためには、はっきりとした目標が必要であり、そのための「意識」と「行動」が重要です。「節目」は後々に振り返った時に、「あの時が今の成長のきっかけになった。」という「結果」に結びついていなければなりません。2学期のスタートは、「今は節目である」ということをしっかりと「意識」して、日頃から「縄南道」で取り組んできている「勝因」となる「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」のレベルをさらに進化させて下さい。日頃から大切にしている「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」のレベルをさらに進化させて下さい。徹底して0.1秒を意識した行動を実行して下さい。4か月後にやってくる年末年始にも大きな節目が訪れます。新年には心身共に「節目」を意識した目標を立てます。その時に立てるであろう目標が、今回の「節目」を意識したからこそその結果に基づくものであり、自らがさらに成長した上での次の「節目」であるように、今回の「節目」を成長の機会としっかりと意識して下さい。

4月に縄南道集会に来ていただいた田本博子先生（元シドニーオリンピック女子ソフトボール銀メダリスト）が、いつも次のようなことを話されています。

「チャンピオンは、心の底からチャンピオンでなければならない。世界最高のコーチを雇って、すべての試合に出るチャンスを手に入れて、最高の道具を持つなんてことは誰にでもできるけど、心がチャンピオンになっていなければ本当のチャンピオンにはなれない。反対に何一つ持たなくても、気持ちと勇気と根性だけでやり抜く自信があるならチャンピオンになれる。」と話されていました。また、「忘れてはならないものは『恩義』、人に与えるものは『思いやり』、大切にしないものは『人との出会い』、通してはならないものは『わがまま』、笑ってはならないものは『人の失敗』。」と話されています。これらはすべて「当たり前」のレベルがとても高いところで経験されたことから伝えておられることです。しっかりとこの言葉の意味を理解して下さい。

「縄南道」が大切にしている「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」は、自らの意識のあり方で、今すぐ誰にでもできるはずのことです。できない時は何かの「負の意識」が存在します。「やらされ」ではなく、当たり前の意識レベルを高くして、行動すべき意義をしっかりととらえ、当たり前のことを自ら率先して実行できることが「縄南道」の目指すあり方です。9月の節目を必ず「自ら

の進化」の機会として下さい。当たり前前のレベルが高くなれば必ずチャンスや目標がさらに大きくなります。夢の実現に向けて、1歩ずつでも必ず近づくはずで、前進すれば立ち止まったままでは見えない物が必ず見えてきます。

「縄南道」では「勝因（一生懸命、ていねい、ひたむき）」と「敗因（いい加減、適当、だいたい）」にこだわっていますが、これには「感情のコントロール」が不可欠です。どんな状況の時であっても「勝因」を貫くためには、自らの「感情のコントロール」は必須の条件です。苦しい場面に遭遇した時、高い壁にぶち当たった時、あるいはさらに高いレベルを要求された時など、歯を食い縛らなければならない場面であるにもかかわらず、「感情のコントロール」ができずに「雑」になってしまうことは紛れもなく「敗因」です。「感情のコントロール」は自らの「人格」に関連します。そのために「鍛錬」が必要なのです。

この夏休みはリオ五輪で多くの選手に感動を頂きました。テレビ等の報道だけではわからないこともたくさんあるはずですので、いろいろと「縄南道」の視点から観戦して応援していた人もいるのではないかと察します。

リオ五輪開幕当初、水泳男子 400m 個人メドレーで見事に金メダルを獲得された萩野公介選手がインタビューを受けた際に、「コーチの平井先生にメダルをかけたい。」ということを通す前に話されていました。萩野選手はリオ五輪を目ざし平井先生の指導のもと、間違いなく想像を超えるような厳しい練習があり、自分は自分なりに頑張っている、乗り越えなければならないそれ以上の高いハードルや壁を要求された場面もあったに違いありません。決して平井先生が萩野選手をちやほやされていた場面などなかったのではないかと察します。より厳しい指導を、より高いハードルや壁をつきつけられたとしても自らの目標がぶれることなく、自らの感情をしっかりとコントロールされチャレンジされた結果であると想像します。「縄南道」に学ぶ生徒諸君にも、ぜひこの節目で「感情のコントロール」を重視した「進化の節目」であることを期待しています。

創立30周年記念式典を開催いたします。

平成28年11月13日(日)10:00開会 於:本校体育館

今年度（平成28年度）は、本校が1987年（昭和62年）に地域に開かれた学校として開校し、創立30周年を迎えることとなりました。つきましては、11月13日（日）10時より本校体育館にて「創立30周年記念式典」を開催いたします。詳細につきましては本校HPを始め、縄南通信10月号等で発信いたします。卒業生ならびに保護者・地域関係者、学校関係者の皆様にはぜひご参加頂きたく存じます。また、

「創立30周年記念式典」の情報を、皆様のお力添えでぜひ多くの卒業生等

にいろいろな方法でお伝え頂き、 当日は30年間の懐かしい顔ぶれがたくさん揃った

式典になればと願っています。よろしく願いいたします。

クラブ等の主な記録

準硬式野球 第67回大阪中学校優勝野球大会山本地区代表（中央大会出場）

陸上 第41回大阪中学校選手権大会 男子共通 200m 3位 二井悠太(3年)22'98（近畿大会出場）